

平成24年度第3回経営工学教育FD/IT活用研究委員会議事概要

I. 日時：平成24年9月11日（月）18:00～22:50

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：渡邊委員長、玉木委員、細野委員、後藤委員、中島委員、小池委員、佐々木委員
（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

1. 学士力を設定した背景について

学士力を設定した背景に関する再考を行った。既に原案をもとに修正され提出された内容に関して、読み合わせを行った後、意見交換が行われた。ここでは、フィールド（現場）を認識することから現実問題へ応用することへの一連の問題解決も含むプロセスの重要性を再確認し、これを踏まえたよりインパクトのあるかつ包括的な表現方法に関して議論を重ねた。管理技術→マネジメント技術、現場→フィールドなど使用する用語を統一した上で背景部分を作成した。

2. 到達目標の解説について

各委員より提出された到達目標の解説の案に関する再考を行った。到達目標の解説に関する確認事項としては、以下の通りである。

- ・ 5行程度の文章で検討する。
- ・ なぜこの到達目標を設定したのか、なぜこの目標に到達しなければならないのかを述べる。
- ・ 「学士力を設定した背景」、「到達目標」、「コア・カリキュラムのイメージ」等、既に述べられている内容はなるべく使用しない。繰り返しの表現は避ける。
- ・ 他の委員会の例では、最初の一文が、「ここでは、…（目標を説明する内容）…させねばならない。or. 目指す。」という構成が多く、「そのためには」や「その上」と続け、「コア・カリキュラム」や「到達度」に関連した説明を追加している場合もあり、その際、文末は「目指す」や「必要がある」や「ねばならない」などで締めくくられている。
- ・ ただし、他の委員会の構成にあまり強くこだわりなくとも、各委員会の中で上手くとりまとめを行うこと。大学の教員のみならず、一般の人にも分かるような表現を心がけること。

上記の確認事項を踏まえ、到達目標1の解説が「ここでは、総合的な視点で課題を発見し、構造化を行い、問題解決に取り組む調査・分析能力を養うために、実際の課題に対して、問題解決のプロセスを適用し、適切な手法を用いて解を導くという知識の統合化ができる能力を身に付けさせねばならない。」として委員会で確定された。到達目標2から4の3つの到達目標の解説に関して、各委員が持ち帰り再検討することとなった。

V. 次回の開催予定

- ・ 教育改善モデルについて、概念図（例：授業の仕組み、シナリオのフローチャート等）を追加することになった。
- ・ 次回開催：平成24年9月28日（金）17:00～19:00 私情協会会議室